

03-3 長野県内の小・中・高等学校の養護教諭へのアンケートによる 摂食障害の実態把握のための調査研究～第2報

杉山英子（長野県立大学健康発達学部食健康学科）、横山 伸（長野赤十字病院精神科）

キーワード：摂食障害、養護教諭、アンケート、コロナ禍

要旨：2011～2012年度に、養護教諭へのアンケート調査という手法で、長野県下における摂食障害の実態調査を実施し、本県における小中学生、高校生の神経性やせ症（Anorexia Nervosa: AN）を中心とした実態を明らかにした。この調査から約10年経過し、現在の実態を知ることが目的として調査を実施した。その結果、摂食障害の事例は前回調査時に比べて増加していることがわかった。特に、中3女子、中1男子、中2男子では前回調査時と比べ、有意に増加していた。そして、調査対象とした期間中に発生した新型コロナウイルス感染症の流行の影響についても中2、中3、高1、高3女子で顕著な事例数の増加が認められた。

A. 目的

2011～2012年度の前回調査から10年後の現在の長野県内の小・中・高校生の摂食障害罹患の実態を知ること、また新型コロナウイルス感染症の流行による影響があったかどうかを知ることが目的とした。

B. 方法

①調査対象：長野県内に所在する公立、私立の全363小学校、全193中学校ならびに全108高等学校とし、それらの学校に所属する小学校5年生から高校3年生までの全ての児童生徒を調査対象とした。内訳は、小学生35,073人（女子17,125人、男子17,948人）、中学生55,189人（女子27,027人、男子28,162人）、高校生56,752人（女子27,529人、男子29,223人）である。

②調査方法：コロナ禍での調査という特殊事情も鑑みて、web調査を実施した。調査対象となった学校の養護教諭に対して、長野県教育委員会保健厚生課より、調査依頼状と回答のURLを記した調査票をメールで送付していただいた。回答については、web回答だけでなく、FAXによる回答も受け付けることとし、選択は養護教諭に委ねた。調査は2021年10月から12月にかけて実施した。

本研究は、長野県立大学倫理委員会の承認を得て行った（E21-9）。

③調査内容：養護教諭に送付した調査票の調査項目は、各校の背景（国・公・私立、所在地、学校長名）、2021年4月時点の学年ごとの人数、摂食障害の患者と疑い例の数、医療機関の受診状況であった。摂食障害の患者及び疑い例の人数については、①摂食障害（思春期やせ症、神経性過食症等）と診断され現在医療機関を受診している児童・生徒数、②現在、摂食障害が疑われ、医療機関を受診している児童・生徒数、③現在、摂食障害が疑わ

れているが医療機関を受診していない児童・生徒数の三項目である。①の項目については、2016～2019年度、2020年度の人数についても質問した。

C. 結果

1. 疑い例も含めた有病率

表1に示すように、養護教諭が把握している摂食障害の患者及び疑い例の実数は、女子が小学5年で6人（有病率0.149%）、小学6年で4人（有病率0.098%）、男子については小学5年2人（有病率0.046%）、小学6年1人（有病率0.023%）であった。

表1 長野県における疑い例を含む摂食障害の患者数と有病率、未受診率(2021年度)

		小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
女子	摂食障害と診断され医療機関を受診している者(人)	4	1	2	5	18	7	6	3
	摂食障害疑いで受診している者(人)	0	3	4	3	5	2	1	1
	摂食障害が疑われるが未受診の者(人)	2	0	1	1	7	3	3	2
	疑い例を含めた患者総数(人)	6	4	7	9	30	12	10	6
	児童・生徒数(人)	4026	4081	3888	3909	3940	3600	3660	3707
有病率(%)	0.149	0.098	0.180	0.230	0.761	0.333	0.273	0.162	
未受診率(%)	33.3	0.0	14.3	11.1	23.3	25.0	30.0	33.3	
男子	摂食障害と診断され医療機関を受診している者(人)	0	0	2	1	2	0	0	0
	摂食障害疑いで受診している者(人)	1	1	0	3	1	1	0	0
	摂食障害が疑われるが未受診の者(人)	1	0	1	1	0	0	0	0
	疑い例を含めた患者総数(人)	2	1	3	5	3	1	0	0
	児童・生徒数(人)	4338	4270	3994	4124	4221	4010	3998	4055
有病率(%)	0.046	0.023	0.075	0.121	0.071	0.025	0.000	0.000	

中学生については、中学1年女子が7人（有病率0.180%）、2年が9人（有病率0.230%）、3年が30人（有病率0.761%）と二桁に上り、中学生になると増加することがわかった。男子では、中学1年3人（有病率0.075%）、2年5人（有病率0.121%）、3年3人（有病率0.071%）であった。

高校生については、高校1年女子が12人（有病率0.333%）、2年が10人（有病率0.273%）、3年が6人（有病率0.162%）であった。前回調査と比較したところ、図1に示すように、女子において、多

くの学年で前回調査の有病率を上回っていた。中3女子では有意差が認められた。男子においても中1、中2で有意に増加していた。

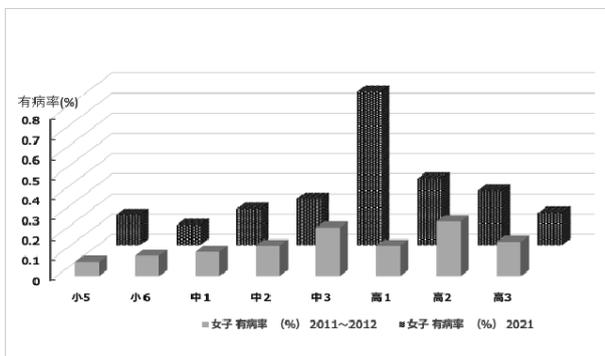


図1 2011～2012年調査と2021年調査の有病率比較(女子)

2. 新型コロナウイルス感染症の影響について

本調査では、前回調査と同様の調査票を使用したことから、調査対象期間に新型コロナウイルス感染症の流行と感染対策という特殊な状況を含むこととなった。こうした特殊状況が摂食障害の発症に影響を与えることが考えられたため、いわゆる「コロナ禍」の前後で比較できるように質問した。表2にその結果を示す。

表2 長野県における2016～2019年度と2020年度、2021年度の摂食障害の患者数比較

		小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
女子	2016～2019年度に摂食障害と診断され医療機関を受診している者(人)*	0.50	1.25	1.50	1.50	1.50	1.75	2.50	1.00
	2020年度に摂食障害と診断され医療機関を受診している者(人)	2	2	4	11	6	5	2	5
	2021年度に摂食障害と診断され医療機関を受診している者(人)	4	1	2	5	18	7	6	3
男子	2016～2019年度に摂食障害と診断され医療機関を受診している者(人)*	0.25	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
	2020年度に摂食障害と診断され医療機関を受診している者(人)	1	0	0	0	2	0	0	0
	2021年度に摂食障害と診断され医療機関を受診している者(人)	0	0	2	1	2	0	0	0

* 4年間の患者数の積算値を4で除して単年度あたりに換算した数値である。

単年度あたりに換算した患者数は、女子においてはほとんどの学年で増加しており、2020年度の中2は2021年度の中3であるが、この学年が特に顕著に多かった。

D. 考察

2011～2012年度に実施した県内初の実態調査¹⁾では、本県にも小5から事例が存在することや首都圏に匹敵する水準であること等が明らかとなった。

約10年経過後の本研究の結果からは、10年前と比較して、中3女子において有意な増加が認められた。小5、中1、中2、高1女子においても増加していたが、その他の学年は10年前と同水準であった。男子については、中学生で増加傾向にあった。

この10年の間に、摂食障害の診断基準が変更されたことには注意が必要である。現行のDSM-5には回避性・制限性食物摂取症(ARFID)が追加された。ARFIDは小児摂食障害の7.2～17.4%の頻度で存在するという²⁾。新しい診断基準が有病率を押し上げている可能性は考えられる。

いわゆる「コロナ禍」が摂食障害罹患に及ぼす影響については、国内外からの報告がある。ロックダウンによる制限下の生活で摂食障害が増悪した³⁾という英国からの報告や国立成育医療センターからは、「コロナ禍」で神経性やせ症の初診外来患者数が1.6倍に増加したという調査結果⁴⁾の公表がある。同様の傾向は、今回の調査でも女子において認められた。特に、調査時点での中3女子は、中1の終わり頃に学校一斉休校、中2の初め頃に緊急事態宣言からの自粛生活で、中学での学校生活が大きく「コロナ禍」の影響を受けた学年である。不適切な食行動は、ストレス発散の手段にもなっており、コロナ禍のストレスが誘因になったことが一因と考えられる。正確な児童・生徒数の数字を把握しているのは調査時点の2021年度だけなので、患者数のみの比較とした。「コロナ禍」の3年間に大きく児童・生徒数が変動したとは考えにくいので、患者数の増加には、相応の影響があったものと考えられる。

E. まとめ

長野県内の小・中・高校生の疑い例を含む摂食障害の有病率は、中学女子で0.18～0.76%、高校女子で0.16～0.33%であり、10年前の調査結果よりも増加傾向にあることがわかった。「コロナ禍」の影響と思われる増加傾向も認められた。

F. 利益相反

利益相反なし。

G. 文献

- 1) 杉山英子・横山伸 信州公衆衛生雑誌 Vol.9 (2) 73-81. (2015)
- 2) Nicely TA et al. J Eat Disord 2:21 (2014)
- 3) Robertson M et al. Appetite 159 (2021) 105062
<https://doi.org/10.1016/j.appet.2020.105062>
- 4) 国立成育医療センター:コロナ禍の子どもの心実態調査プレスリリース(2021.10.21公開) <https://www.ncchd.go.jp/press/2021/211021.html> (最終閲覧日 2023.3.28)

(謝辞)

調査にご協力くださいました長野県教育委員会保健厚生課の小田切優美先生、調査対象の学校のすべての養護教諭の先生方に感謝申し上げます。